楽籠クラブ OB 会幹事会議事録　（平成 21 年度第２回）

文責・坂上

日時：平成 21 年 10 月 14 日　18:30～21:00
場所：新日鉱グループ六本木クラブ
参加者（役職名敬称略）町田、永田、小谷、土居、三矢、長谷川、香坂、八尾、真壁、小嶋、岩田、竹内、神島、青木、相澤、腰高、古川、大川、坂上、石丸、原、計 21 名

【報告事項】

１．エリアネットワーク（永田）

各地区の会合の予定。10/17,18 中四国地区、11/7,8 九州地区＠熊本、11/28 関西地区＠京都。東海地区、東北北海道地区、甲信越北陸地区、いずれも参加者 10 名超。

２．ＳＯ関係（小谷・竹内）

9/20～22 に、SO 東京主催の全国規模のバスケットボール大会。インフルエンザ騒動を乗り越え、スタッフ、コーチ、オフィシャルとして、ＯＢ・現役・ＫＧＢが参加。

３．現役担当（青木）

夏合宿を山中湖にて 9/6－9 に実施。秋の連盟戦は、早くも就職活動に入っている３年生がおり、また、インフルエンザによる戦線離脱もあり、現在１勝１敗。

【協議事項】

１．５５周年イベント企画、その他について（神島）＊別紙資料参照

・４期鈴木氏（エース）がＯＢ会機関誌「楽籠注目」に連載している「川先伝」３回分を、まとめたものを小冊子にする件について。予算は、Ａ５版表紙つき 24 ページのものを 300 冊印刷するとして、概算で５万円程度。

→「若い人たちにとっては意味がないのではないか」「意味を持たせるためにガイドブック的な役割を持たせたらどうか」などの意見が出たが、最終的には「エースの文章が意義深いものである」という本来の趣旨に立ち返り、シンプルな冊子にすることで決着。エースご本人に、川先の書いた手紙など、冊子に載せるべき文献や資料などがないかを尋ね、計画を進めていく。今期予算とするか来期予算とするかは、進捗状況次第。

・新ファミリー大会開催について。あくまで 55 周年記念にやるという前提（毎年やるということではない）。かつて 45 周年でボーリングとホテルでのパーティーをしたときと同様、家族ぐるみで楽しめる会を、若手中心の企画で用意したい。

→特段の異論はなし。ひとまず事務局が中心となり、次回の幹事会までに具体化に向けての検討を進める。

・会報「楽籠注目」のダイジェスト版作成について。イメージとしては、機関誌発行 20 周年記念として、55 周年に合わせて発行する。文庫本のようなものにしたい。

→特段の異論はなく賛成。

２．楽籠大会の充実案について（坂上）＊別紙資料参照

・「幅広いＯＢ（またはその家族）の参加」「バスケットを通した現役との交流」をねらいとして、今までの楽籠大会を拡充し、トーナメント戦方式にする提案。

→「現実問題として、施設の確保が困難ではないか」「今までの、現役がイニシアチブをとる大原則を崩すことにならないか」といった懸念が出たものの、「オール楽籠で一体となり、互いの交流を盛り立てる」ことには概ね賛成。さしあたり提案者が中心となり、体育館の確保などの条件面がクリアできるかを模索する。

３．今後のＯＢ会組織のあり方について（腰高）

・９月末に行われた 20 期代の会合の報告（「川先後」のＯＢとしての本音。たとえば、「『エリアネットワーク』という形での結びつきがあるならば、『世代ネットワーク』という形での結びつきもありなのではないか」など）に基づき、自由に意見交換をした。

・今回は、前回提起したような幹事会のあり方などの具体的な話は出ず、総論的な意見に終始した。全体としては、キーワードは「未来志向」。組織がかなり大きくなっている現状があるので、今まで以上に若手が中心となって進めていくことに期待を寄せる意見が多く出た。

以　上

幹事会へのご提案

事務局　神島

１．エースの「川先伝」の小冊子化

OB 会報「楽籠注目」で連載された鈴木エースの力作「川先伝」は OB 関係者の間でも、関心が高く、今後の現役教育資料として利用価値も高いことから、町田会長よりのご提案もあり、３回分をまとめて小冊子として一定部数作成したい。

予算案　：　数万円　（バントウさんに確認中）

賛同いただけるかどうか　？

やるとすれば、今期予算とするか、来期予算とするか？

２．５５周年記念行事

（１）新ファミリー大会

OB 会の行事が増えたことから、数年前に長年続いた年末ファミリー大会は終了、さらにイベント担当も廃止した。しかしながら、一方で、３０代前後の OB を中心として、家族ぐるみで開催されたファミリー大会は「こわもての年長 OB が中心の集まりではなく、①現役時代は、OB の家族参加ということでお互いに親近感が増長されること、②就職し、家族を持ってからはラクロウ OB 会を自分の家族に理解してもらえる恰好の場であった」ということで懐かしむ声が強い。

家族で楽しめるイベント（ボーリング、アウトドア競技、ラクロウ運動会は遣り過ぎ？）を中心に、「ファミリー大会」を復活させてみたい。　⇒　若手中心のプロジェクト・チーム結成

（２）会報「楽籠注目」のダイジェスト版作成

既に、実感されていると思うが、ここのところ会報への投稿原稿の充実振りは目を見張るものがある。ただ、このままでは、貴重な原稿は個別の会報に埋もれ、散逸する可能性が高い。また、再読したい原稿があっても、全体のインデックスが無いので、検索が難しい。総会、楽籠大会など定例行事報告は別として、特集記事を集めたダイジェスト版を作成してみてはどうか？

2009 年 10 月 14 日幹事会資料

楽籠大会の充実案について

文責　坂上（34 期）

今回、このような案を出すに至ったのは、前回の幹事会での町田会長の発言（「楽籠大会で、現役とＯＢとの交流を深めるのがＯＢ会活動の原点である」という趣旨）を受け、ここで一度楽籠大会というものを見直してみようと考えたためです。大会をよりよくしていくためのご意見を出していただければ幸いです。

【楽籠大会の概要】

＊ 楽籠大会は年に２回あり、昼の部・夜の部ともに現役が主導で行っている。ＯＢの参加者は 10～30 名ほど。日吉の普通部が使用できなくなってからは、昼の部は主に旗の台文化センターで実施。夜の部は旗の台の「庄や」で実施。
＊ 昼の部（体育館）は、ここ数年はアップ→東西対抗戦→フリースロー大会→現役対ＯＢ戦という流れで行われている。
＊ 夜の部（居酒屋）は、川先杯授与→現役による自己紹介→ＯＢ（若手から順に）の話→若き血→エールというのが基本的な流れ。

【楽籠大会の本来の意義】

＊ 現役とＯＢが、共通項であるバスケットを通して交流するのは、双方の発展にとって最もよい機会である。
＊ 現役にとっては、卒業生のプレイや肉声に触れることで、多様な価値観を知り、広い意味でのキャリア形成という点でよい影響を与えることになる（はず）。
＊ ＯＢにとっては、同窓会的な楽しみを享受でき、普段なかなか接する機会を持てないバスケットや後輩とのふれあいを楽しむことができる。

【現状（坂上の私見）】

＊ ＯＢ会が大所帯となり、ベテランＯＢの参加が増える一方、若手ＯＢの参加率はいまひとつである。特に夜の部は、若手がほとんど参加していない。
＊ 昼の部・夜の部双方とも、現役担当のＯＢが手取り足取り教えてあげてはじめて運営できているという面が否定できない。
＊ 昼の部では、フリースロー大会などを作ることで、幅広い世代のＯＢが楽しめるようになっていると一定の評価ができる。
＊ 夜の部では、ＯＢの人数が多くなるとそれだけで会が終了してしまう点や、現役がしっかりとその場を仕切れず、飲み会をすること自体の意義が薄れている点が問題であると考えている。

＊ 今回この案を出すに当たって、様々な世代のＯＢにご意見をうかがったところ、「かつては川先に会いに行くという大きな目的があった」「かつては夜の部はなく、体育館付近の食堂などで軽食を食べつつＯＢの話をうかがった」「飲み会はその後ＯＢ有志が幹事学年を連れて行っていた」などの声を聞いた。
＊ 現在、同窓会的な集まりとしては、（特にベテラン世代の方々は）ゴルフや各種飲み会などのイベントが多数存在している。また、現役との交流についても就職ガイダンスやＳＯ活動などの機会があり、「楽籠大会でないとできない」ことが見いだしにくいという新たな問題点も発生している。
＊ また、やはり根本的には、かつての「川先」にあたるような「求心力」がなく、全員が共通の目的で楽籠大会に参加しにくくなっている現状がある（これはＯＢ会のあらゆる活動にいえることですが…）。

【充実案】

＊　上記の意義に照らして、ねらいとしては、「幅広い世代のＯＢの参加」「ＯＢの出席率アップ」「バスケットを通した現役との交流」という点を考慮に入れ、以下のような案を考えてみた。

日時：年２回が理想だが、年１回でもよいので、日程を固定化（○月の第○日曜日、というふうに）する。

場所：ＯＢが家族を連れてこられるような、観客席のある体育館。２面あることが望ましい。
（例・戸越体育館、品川総合体育館、浜町体育館など）→慶應の塾高などは借りることは不可能か？

流れ：日曜日の朝に集合。
現役を（上級生と下級生）２チーム、ＯＢを（新入りＯＢ、若手、中堅、ベテラン）４チームくらいに分け、トーナメント戦を行う。途中、昼食や東西対抗戦・フリースロー大会をはさみ、15 時頃までには終了。
終了後は特に飲み会という形ではやらない。理想としては、会議室のようなところを借り、ケータリングなどを利用して、簡単な立食パーティーのようなものができるとよい。ＯＢ会の事務局と現役の幹事学年は原則として参加し、会場のセッティングなどをする。現役がいれば自己紹介をし、幹事学年は活動報告をする。ＯＢはひとことスピーチ。２時間程度で終了し、その後飲みに行きたい人は行く、という感じ。

長所：日程を固定化し、曜日や時間帯に配慮することで、若手や中堅のＯＢが今までより参加しやすくなる。バスケットを社会人になっても続けている人、またはその情熱が冷めていない人にとっては、「世代対抗戦形式」は参加の動機付けとなりやすい。現役にとっても、夜の部などの負担が減ることになる。

短所：バスケット自体より同窓会的なものを求める人にとっては、退屈に感じるかもしれない。また、体育館やパーティのスペースが、理想的な時期に確保できるかどうかが大問題。また、トーナメント形式にするなら、最低４チームの成立が不可欠だが、それが可能か。

分担：軌道に乗ってきたら、体育館の確保やバスケットの仕切りは現役に任せる。終了後のパーティーについては、基本的にはＯＢ会事務局で行う。

その他：参加するＯＢを事前に現役を含めたみんなに知らせておくとか、当日は名札をつけるようにするとか、互いが交流しやすくなる仕掛けを考えたい。また、公式ＨＰやメールなどを利用し、大会の終了後にＯＢから現役へのメッセージなどを伝えられるようにしたい。